

## 異世代ホームシェア事業の試験的運営

事業責任者： 菊地 吉信（工学研究科・准教授）

<b>概 要</b>	<p>異世代ホームシェアとは高齢者宅の空き室を学生が借り、家主である高齢者と学生とが共同生活を送る住まい方を指す。孤立防止と安心創出、住宅管理および住居費の負担軽減等、高齢者と学生の双方に様々なメリットが期待できる。本事業は 3 年間をかけて、地方都市では先例のない異世代ホームシェアを福井に根付かせることを目的として取り組む。本年度はその 3 年目として、とくにマッチングの実現に注力することとした。事業期間を通じて学外での広報活動を積極的に行い、地域住民に事業について周知した。また関係機関との連絡・協力関係も強化し、年度内に新たに 1 件のマッチングを実現することができた。新規マッチングの実現という目標は概ね達成できたと考える。</p>
<b>関連キーワード</b>	ホームシェア、高齢化、世代間交流、空き室・空き家、住環境

### 事業の背景および目的

高齢化と少人数世帯の増加は全国的傾向であり、高齢期の世帯とくに単独世帯にとっては、日常的な住宅の手入れや防犯など住み慣れた環境を維持するための身体的・精神的負担が自立した生活を続けるうえでネックとなるものと想定される。また住宅と世帯の関係をみると、住宅規模に対して世帯規模が小さく、ふだん使用しない空き室を抱えていることが窺われる。

一方、一人暮らしの若者は生活費を節約する傾向にあるが、生活費のうち住居費の占める割合は依然として大きい。また不慣れた土地での一人暮らしに馴染めず孤立感にさいなまれるケースも生じている。

以上のことから、異世代ホームシェアを導入することにより、家主と若者双方の孤立防止と安心創出、住宅管理および住居費の負担軽減等、双方にとって様々なメリットのある住まい方となることが期待できる。

本事業は 3 年間をかけて、地方都市では先例のない異世代ホームシェアを福井に根付かせることを目的として取り組む。本年度はその 3 年目として、とくに新規のマッチング実現に注力する。

### 事業の内容および成果

申請者らはこれまでに試験的活動として延べ 3 組のペアを実現している。平成 29 年度は広報活動の充実と関係団体との連携強化に取り組みつつ、新規マッチングの実現を目標とした。

広報活動としては、福井大学文京キャンパス近くの公民館行事に学生スタッフが定期的に参加し、事業の PR に努めるとともに、公民館スタッフや地区民生委員との連絡関係を築き、利用希望者を募る際の助力を得た。

また、東京都や京都府で行われているホームシェア事業に関する講演会等に参加し、積極的に他地域の情報を収集した。

こうした活動のかいもあり、新たに家主一名、学生一名によるマッチングが成立し、3 月 28 日に学生の保護者を交えて引っ越し入居が完了した。今年度は福井での新規利用者のマッチングが目標であったため、年度当初の目的は概ね達成できたと考える。

今後も積極的な広報活動等を行い事業の充実をはかるとともに、新たに始まった利用者のアフターケアをしっかり行う。

### 参考文献・添付資料および特記事項等

本事業を行う福井大学住環境計画研究室に対し、総務省より平成 29 年度ふるさとづくり大賞・総務大臣賞（団体表彰）が授与された。

# 事業名称:異世代ホームシェア事業の試験的運営

事業責任者: 菊地 吉信 (工学研究科・准教授)

## 背景と目的

家主(主に高齢者)と若者(主に大学生)双方の孤立防止と安心創出、住宅管理および住居費の負担軽減等、双方にとって様々なメリットのある住まい方となることを期待できる。本事業は3年間をかけて、地方都市では先例のない異世代ホームシェアを福井に根付かせることを目的として取り組む。H29年度は新規マッチングの実現を目標とする。

## 主な成果

地域関係者との連絡関係を築き、事業のPRに努めるとともに利用希望者を募る際の助力を得た。年度内には新たに1件のマッチングが成立した。新規のマッチング実現という年度当初の目的は概ね達成できたと考える。今後も積極的な広報活動等を行い事業の充実をはかるとともに、新たに始まった利用者のアフターケアをしっかりと行う。

